

シンボルマークにある秋田犬のような子どもを育てる

福井県越前市武生南小学校 國久 繁雄



新幹線こまちに揺られながら、初めて秋田を訪れた。大会当日、朝の雨はあがりさわやかな秋空が県立武道場を包んだ。副主題「ふるさとを愛し 志をもって 自ら新しい社会を切り拓く子どもたちを育てる」から、家族思いの秋田犬、未来を象徴する稲穂、世界へ羽ばたく三色の翼（緑は白神山地、青は日本海、赤は校長会の情熱）を表すシンボルマークになったということだ。

第3分科会の最初は「学校評価の充実」について、組織的で継続的な改善を目指し、倉敷市児島地区校長会が定めた4本柱をもとにした各校の取組みの紹介があった。(1) 経営方針の明確化 (2) 正しい評価を得るための情報発信 (3) 評価結果を分析する組織作り (4) 評価者意識の改善という柱はまさに校長のリーダーシップが問われる柱であり、興味深く聞かせてもらった。赤崎小学校では、住民と学校を結ぶ学校支援地域協働本部があり、地域と学校が緊密に結び合っていることがわかった。業務改善の動きの中で校長先生の卓越した調整力の賜だと感じた。

「人事評価」については、鶴岡市田川地区校長会が「田川ハーナリ」という土着の精神をもとに、3つのキーワードを定め課題解決に取り組んでいった。1「自己評価の立て方」2「教育目標達成と組織の活性化」3「客観性・公平性・納得性の確保」はすべて信頼される学校作りに直結するものであり、実践例を提供された2校は、校長を中心とした変革意識の高い教員集団だからこそ実践できたきめの細かい内容だった。その後のグループ協議の話題は地域の人々の評価がどこまで必要か、評価のための組織づくりなど学校の業務改善とのつり合いをどう保つか、昇級やボーナスに反映させることで教員の意識改革が進むかなど真剣な話し合いがなされた。

広くてきれいな分科会会場で、全国から集まった先生方と校長の役割や指導性について本音で討議できたことは大きな収穫となった。学校に戻った今、多くの校長が学校経営に奮闘していることを念頭に置き、信頼されるリーダーシップを発揮していきたい。本当に実り多い大会となった。